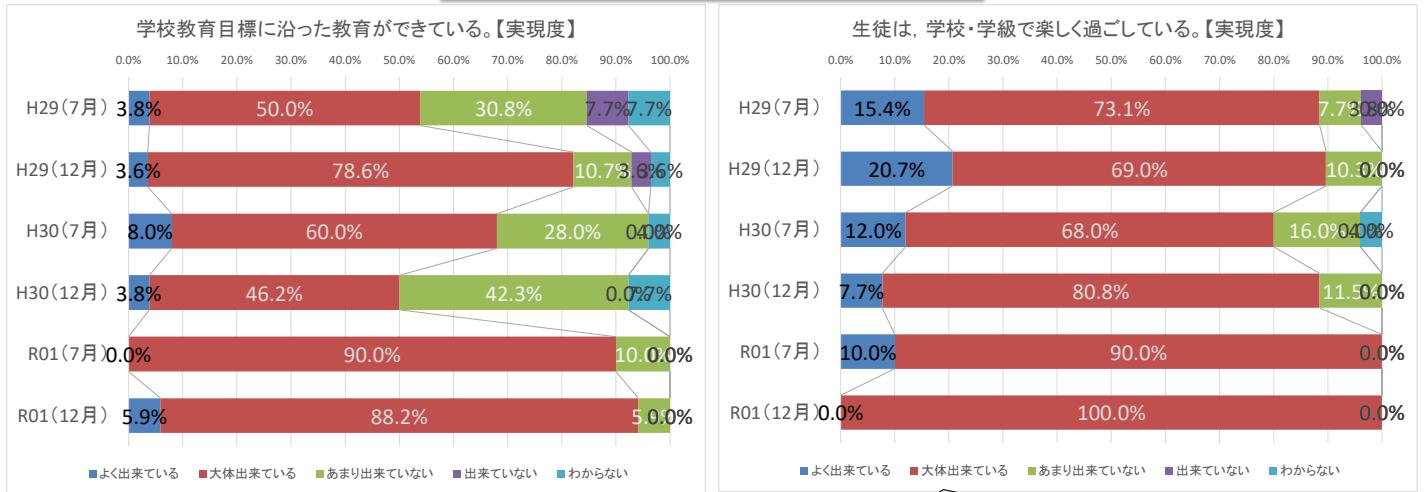
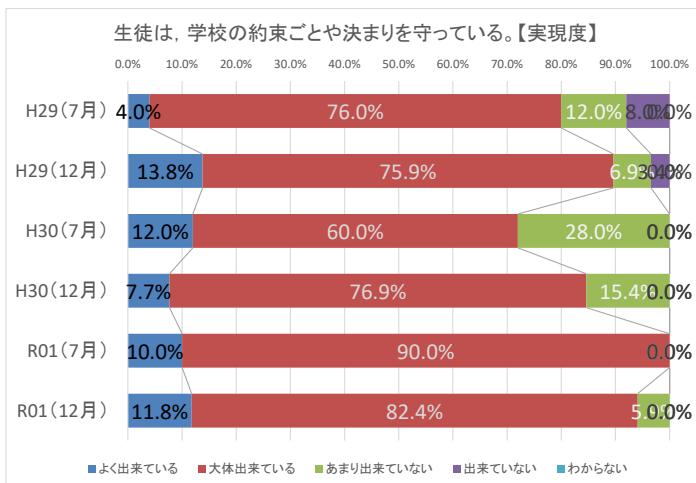


教職員向けアンケート(1)

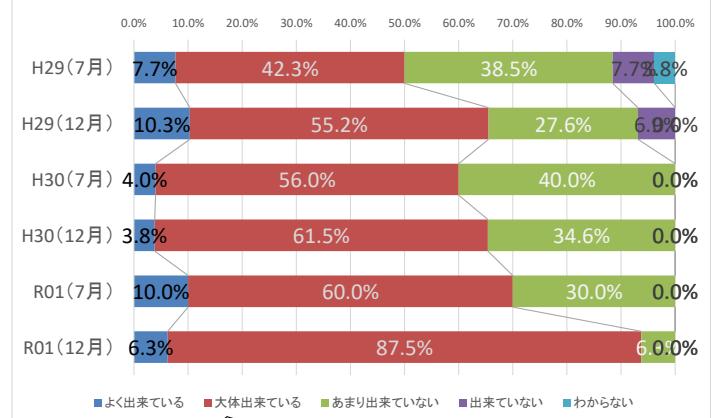


教職員と目標がしっかりと共有出来ている。

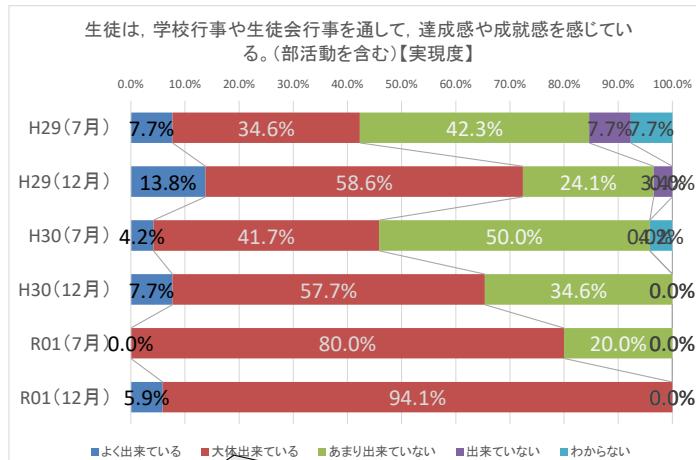
学校生活において、何か悩んでいるように見える生徒が少なくなった。



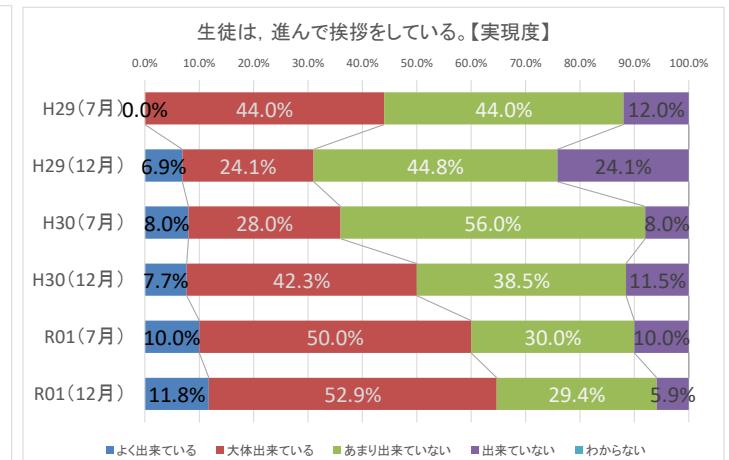
生徒は、学級活動や生徒会活動に積極的に取り組んでいる。(部活動も含む)【実現度】



年々、勉強以外の部分にも積極的に取り組み始めている

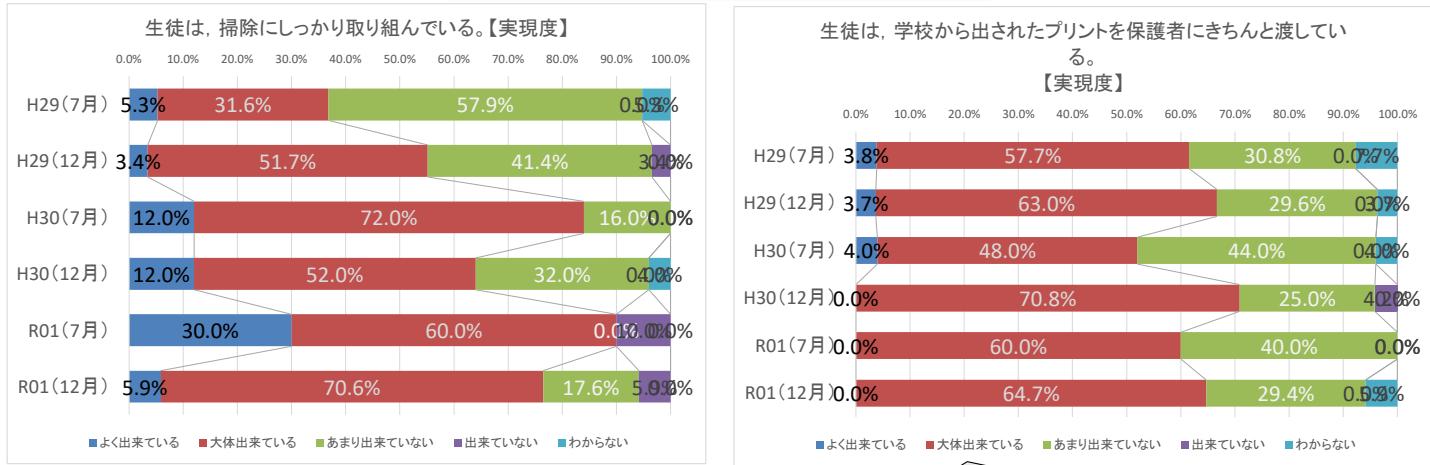


前出の結果からも、積極的に取り組むことが、達成感・成就感に通じる。

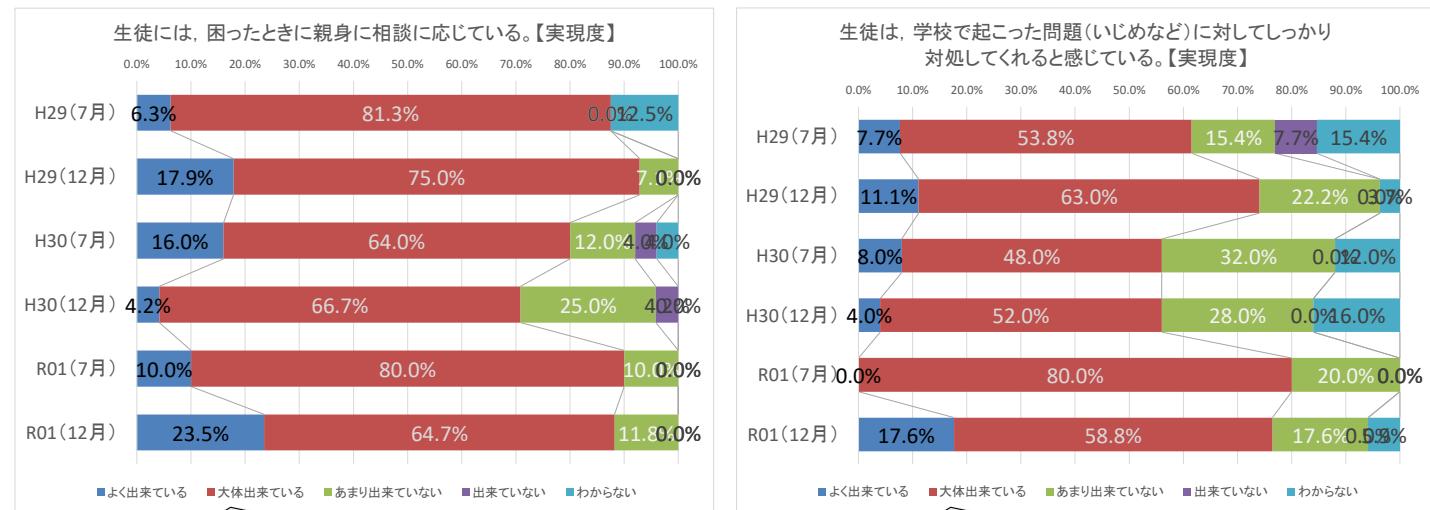


学年や生徒によってばらつきを感じる。

教職員向けアンケート(2)

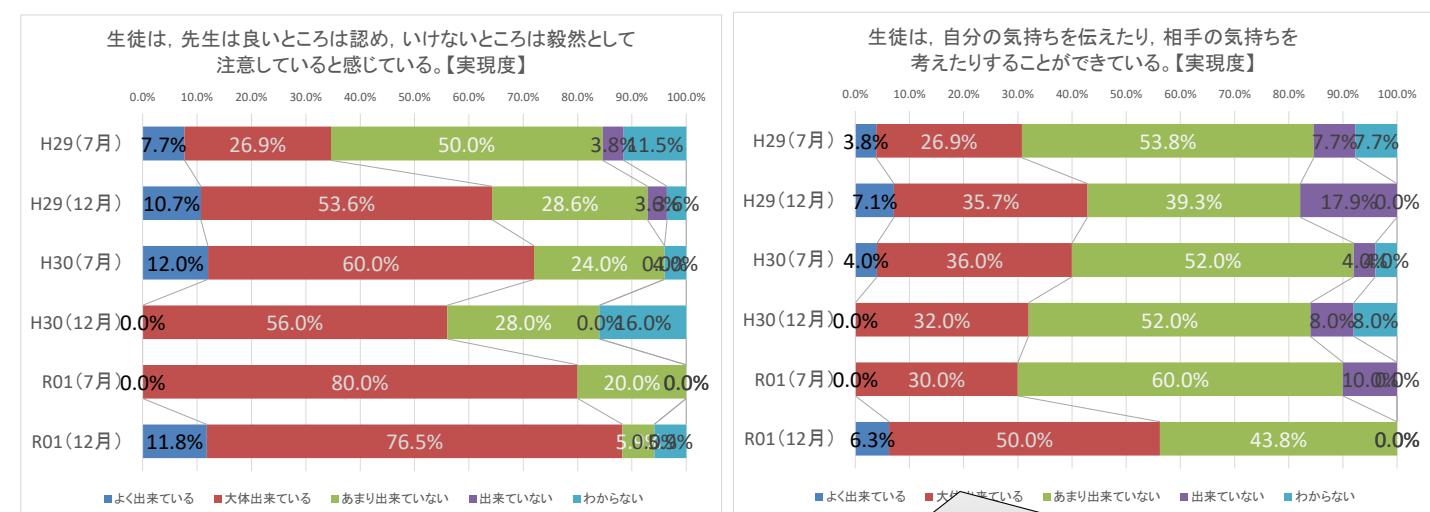


多くは確実に届いているようだが、それ以外のご家庭はほぼ固定されている。



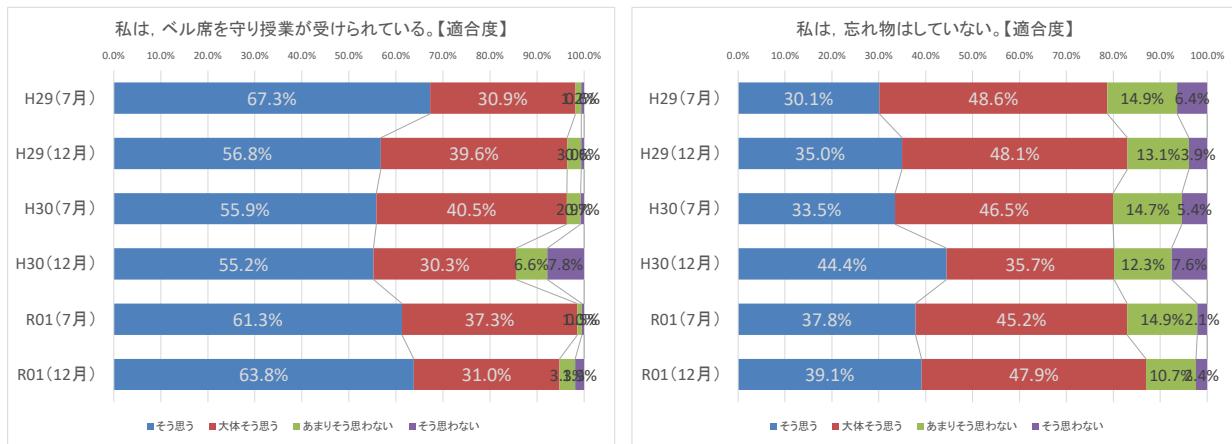
本来であれば「出来ている」までが100%であって欲しい。

左記同様に、しっかりと対処できるように、若手を中心とした研修が必要である。

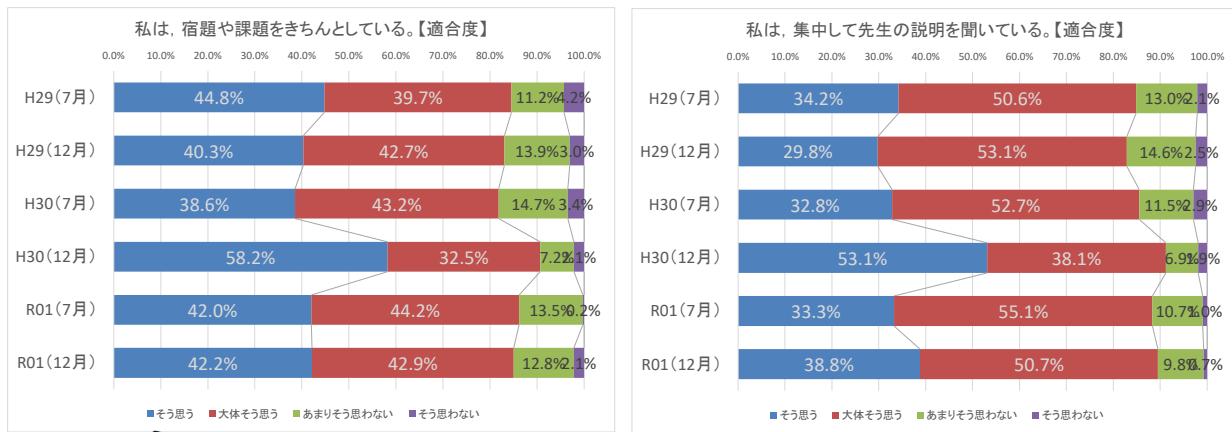


「子どもだから」という部分もあるが、教育において、「しっかり考え、伝える」ことをさらに重点的に取り組む必要がある。

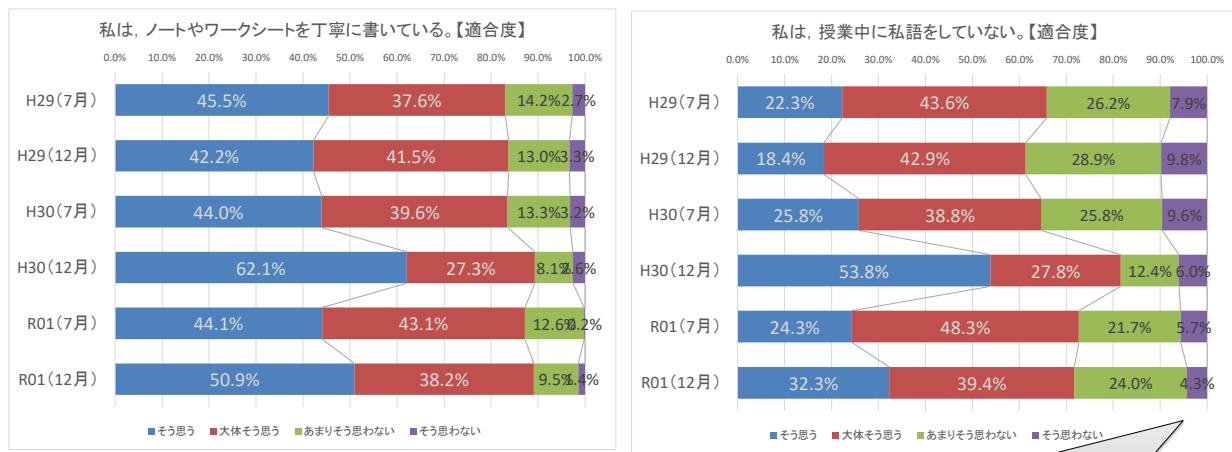
授業評価<生徒> (I)



教師からの声掛けや保護者への連絡をするも、
生徒は固定化されている。

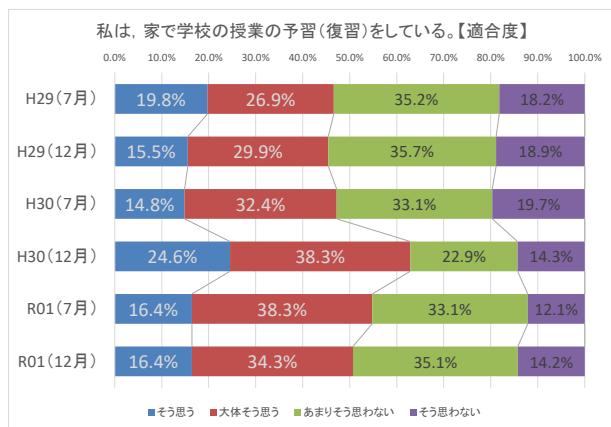


忘れ物と同様



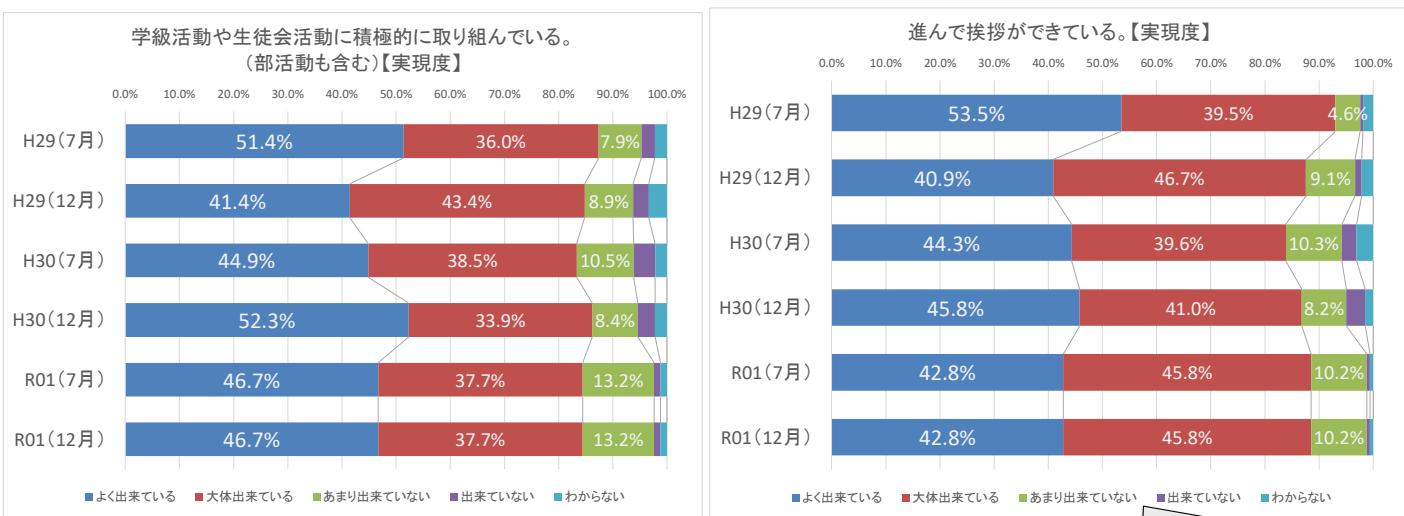
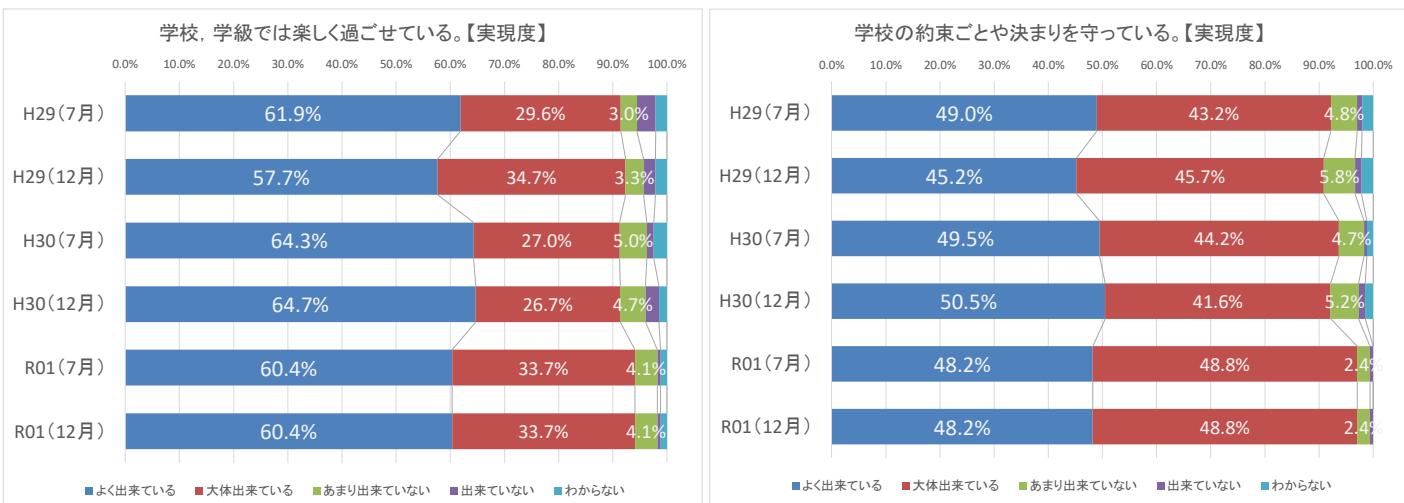
減少傾向にはあるものの、未だ30%近くいることに、授業規律の徹底が今後も必要

授業評価<生徒> (2)

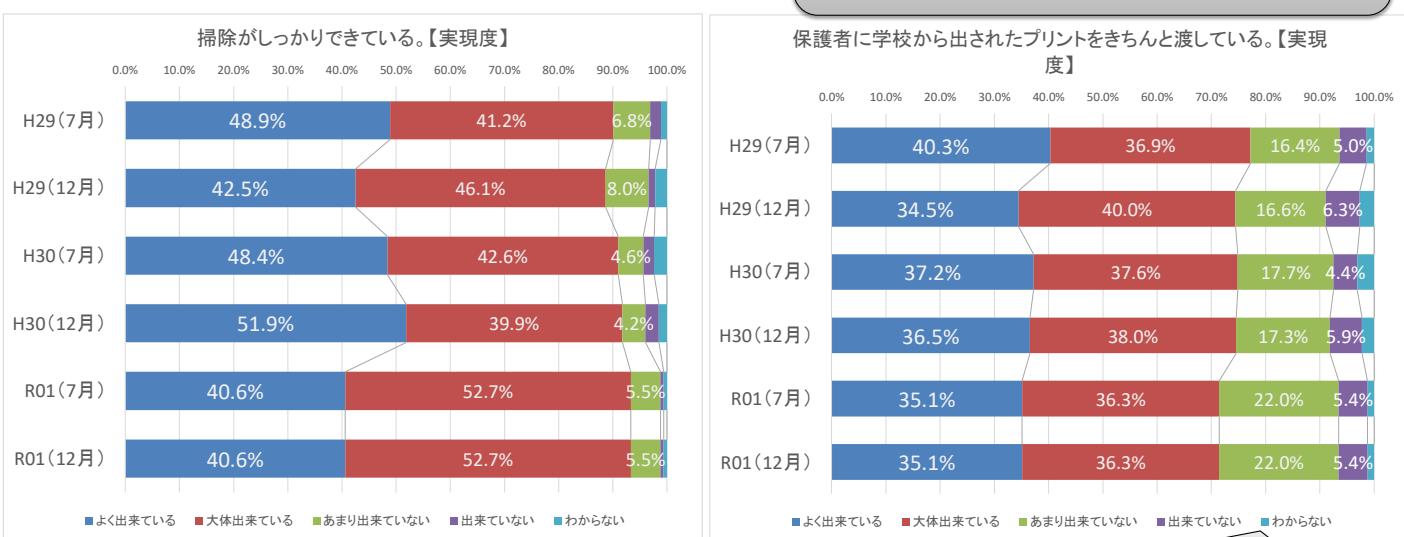


改善の状況が見られない要因として、塾等の課題の多さを生徒の声としてよく聞くことがある。生徒がしっかりとスケジュール管理をする必要がある。

学校評価<生徒> (I)

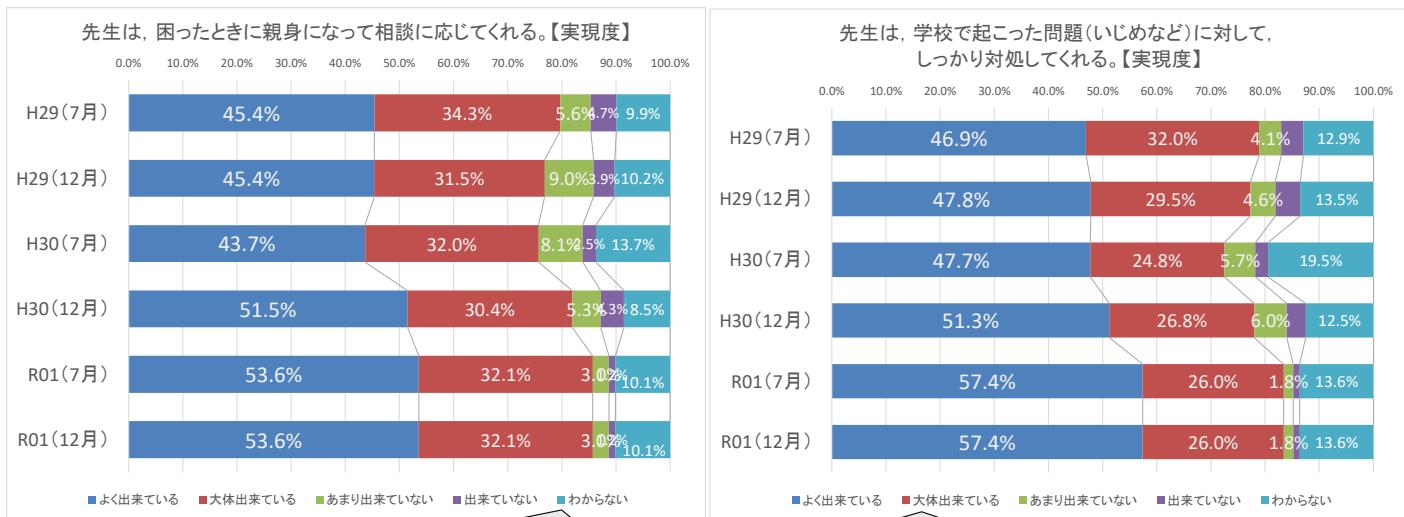


教師は約36%が「出来ていない」としている。
先輩(部活)に対しての部分も含んでいると考えられる。



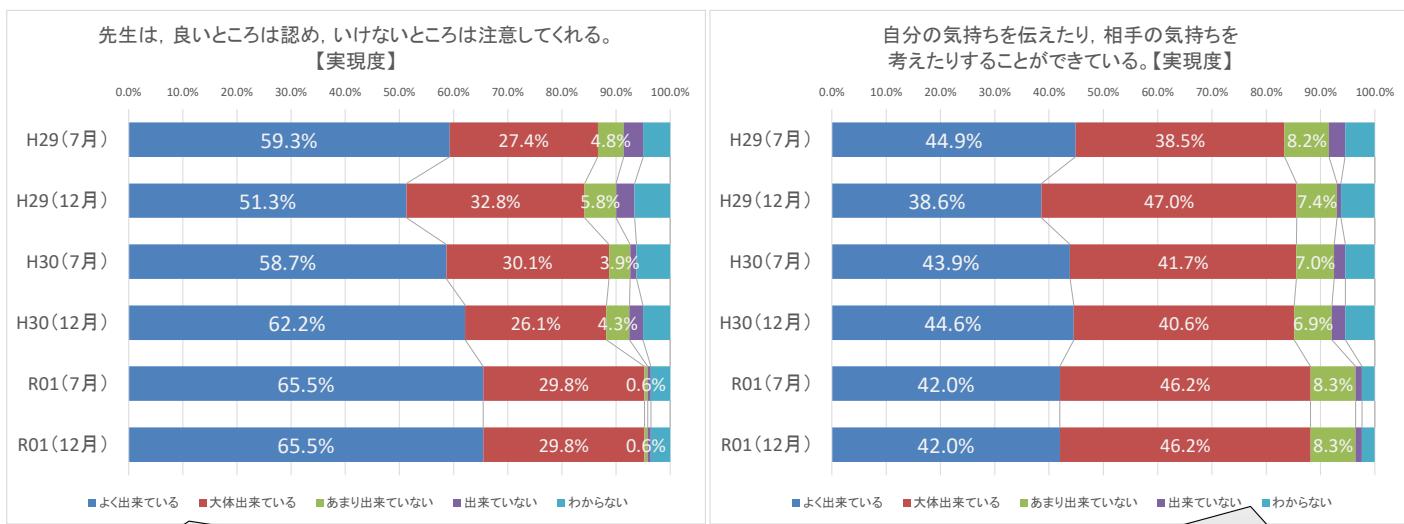
3割近くは渡せていない。今後は、ホームページやメールによる配布等を考えていくことも必要である。

学校評価<生徒> (2)



教師の実現度88.2%と同様に、生徒85.7%は感じている。

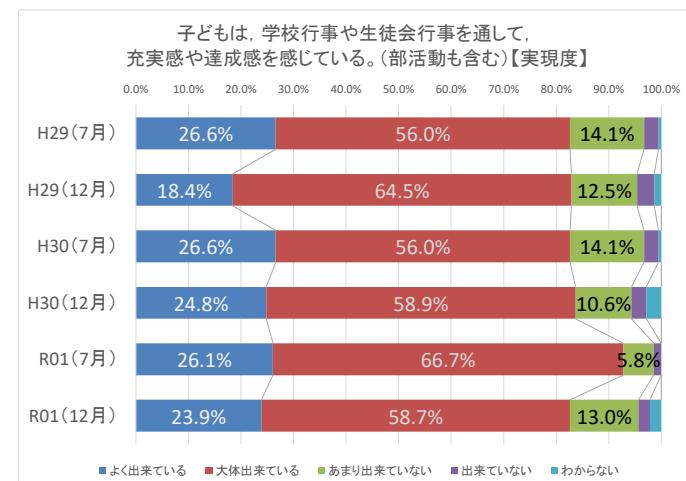
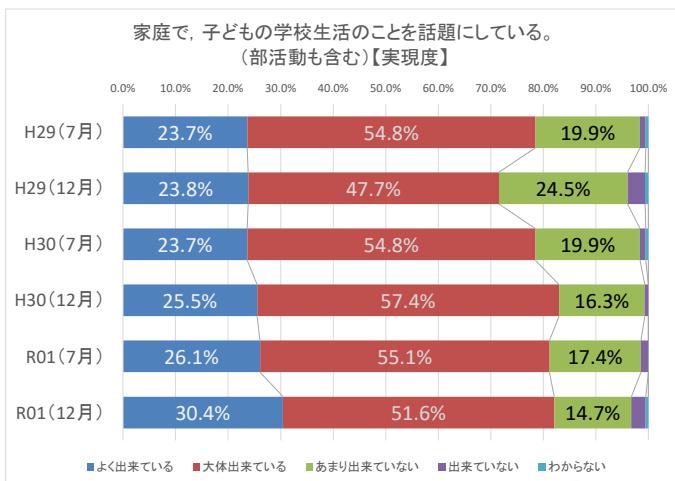
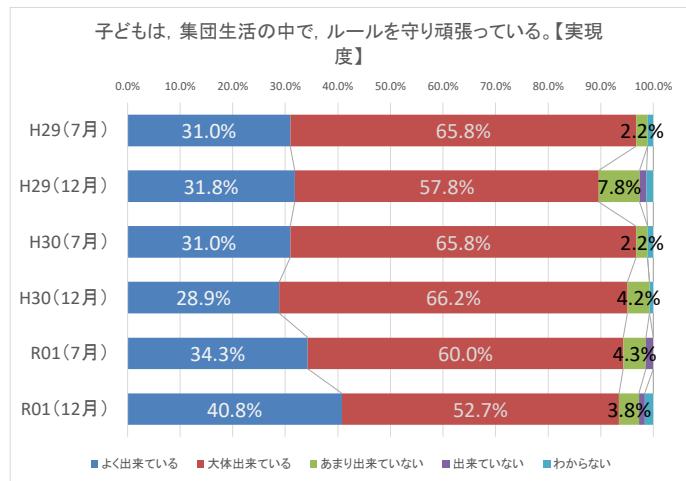
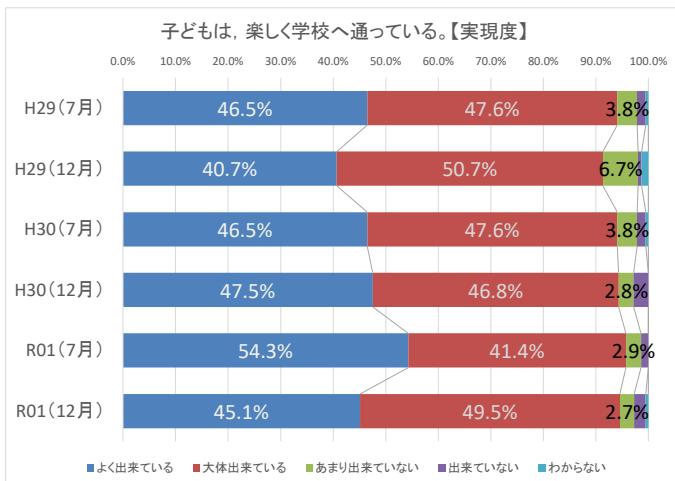
教師の実現度76.4%以上に、生徒83.4%は対処してくれていると感じている。



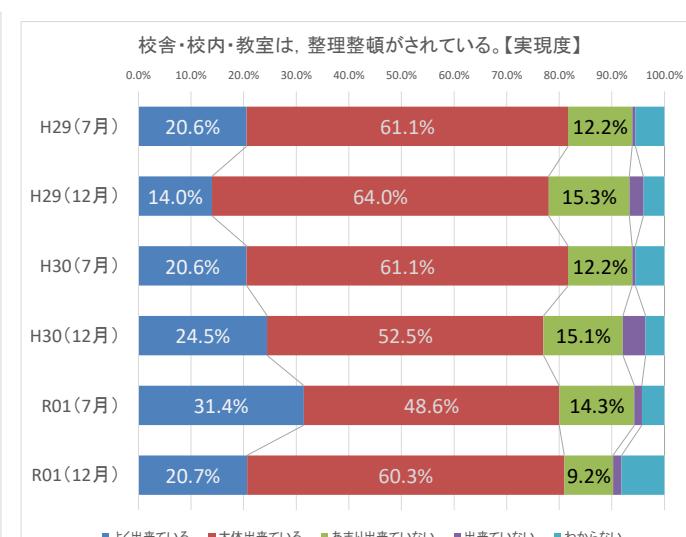
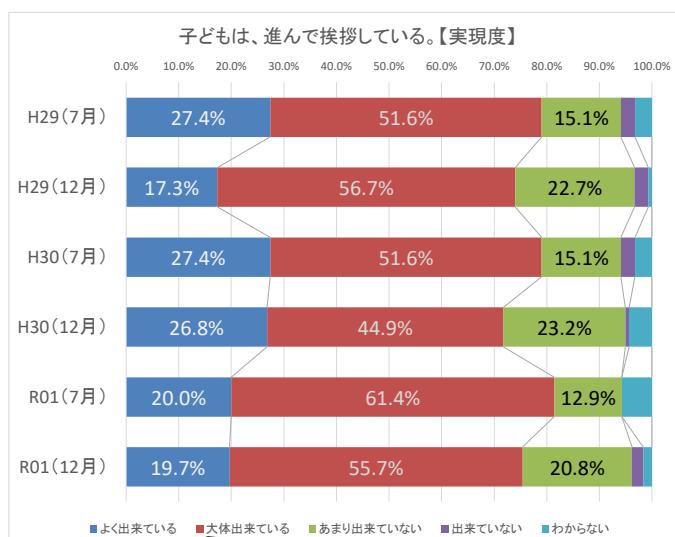
教師として、生徒にわかりやすい指導は重要である。なぜ褒められたか、なぜ叱られたのか。生徒にしっかりと伝わっていると読み取れる。

教師の実現度56.3%と生徒88.2%に大きな開きがある。生徒としては考えているが、それを上手に言葉として相手に伝えることができていないのでは?

学校評価<保護者> (1)

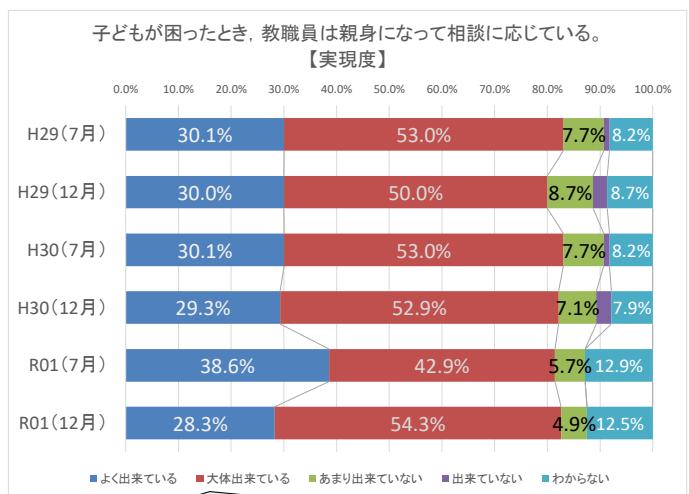
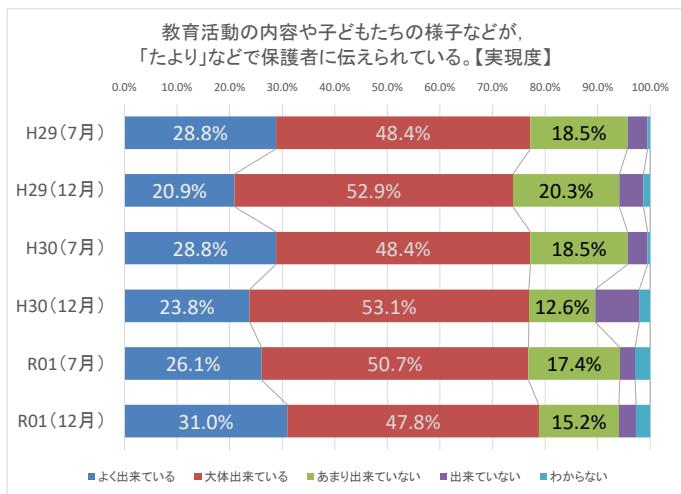


家庭で学校の話題を話す生徒が徐々に増えてきている。

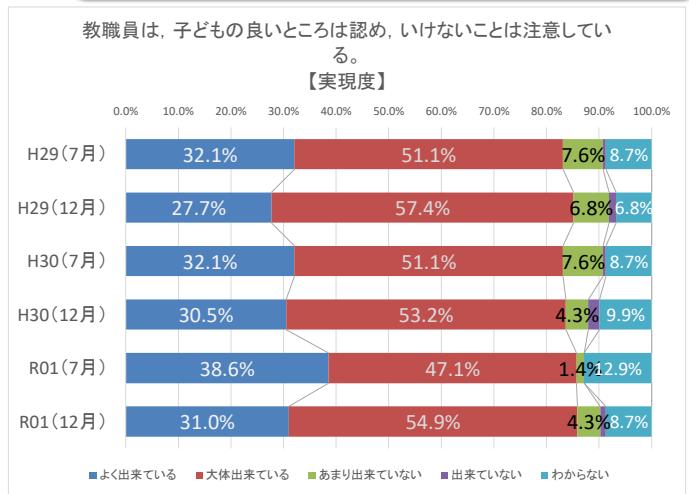
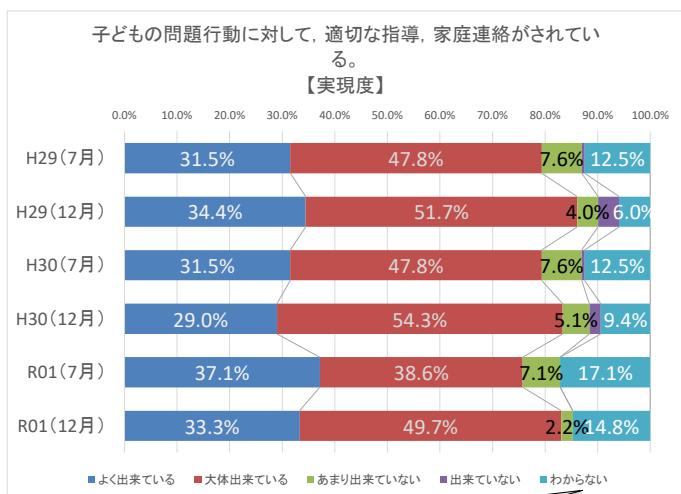


「出来ている」教師64.7%, 生徒88.6%, 保護者75.4%。12月に減る傾向あり。学校への慣れか、中学生になって難しい年齢になったのか。

学校評価<保護者> (2)



概ね「出来ている」だが、「わからない」のは、生徒と会話が少ないので、教師側から情報がしっかりと伝わっていないのか。



右上と同様

